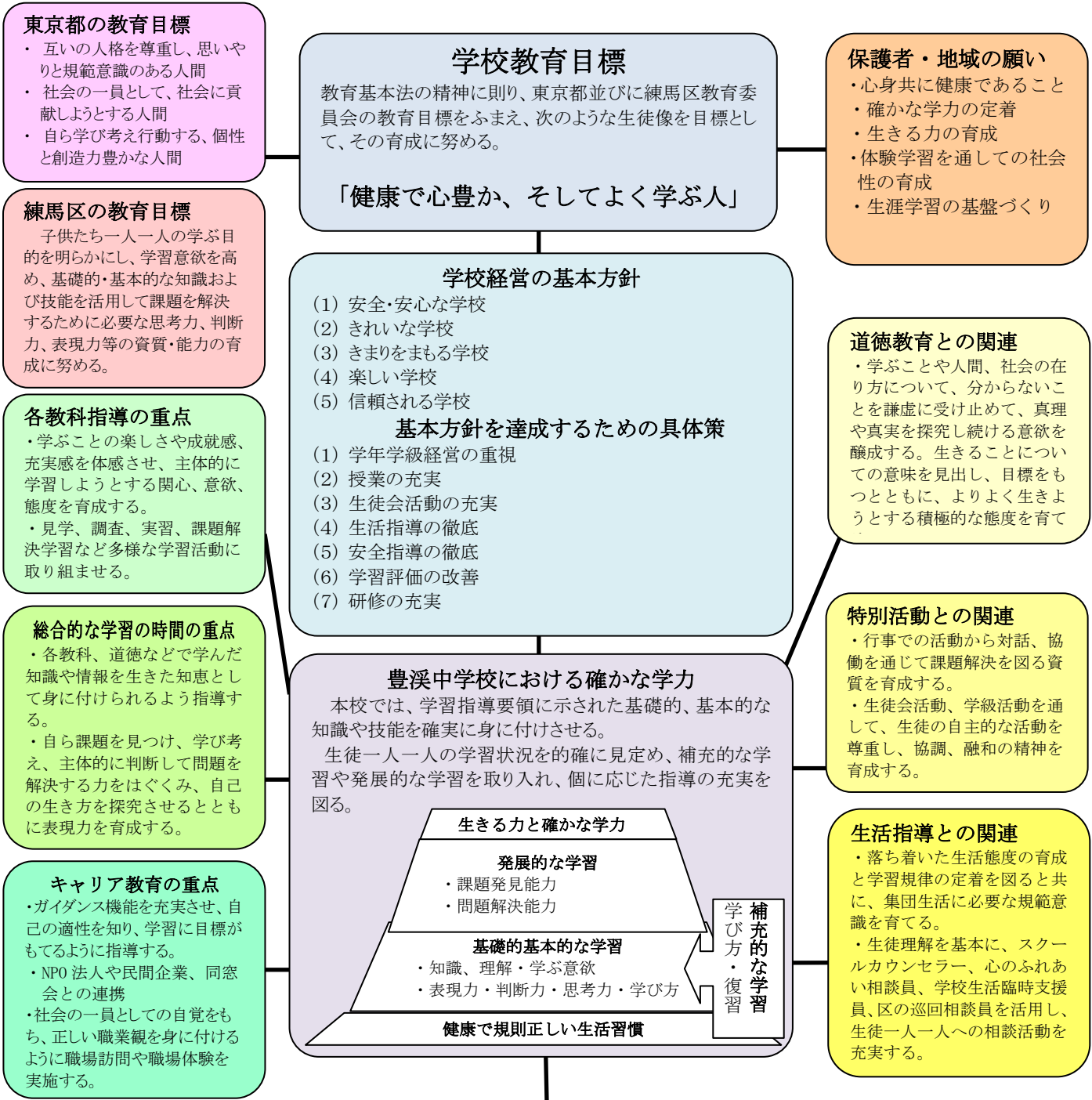


学力の向上を図るための全体計画



授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫と学びの支援	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ICTの積極的な活用。 実験や実習を多く取り入れた授業を展開し、学習意欲を高める。 数学で習熟度別指導、英語で少人数指導を実施。 夏季休業中に学力補充教室を開設する。 放課後の地域未来塾(K中ベアシック)や11月以降に入試に向けた補習(K中ゼミ)を行う。 生涯にわたる能動的な学びに向け、他との協働を取り入れた授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事の精選に努め、道徳、総合的な学習の時間を計画的に実践し、各教科において標準時数を超えた授業時数確保する。 時間割の組み換え・振替を積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した授業づくりに向けて授業研究を推進する。 課題改善カリキュラムの活用と見直しを通じて、指導課題の明確化と指導方法の改善に努める。 小中一貫教育研究グループの授業研究を通じて9年間を見据えた指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の評価規準、基準を見直す。 観点別評価から評定に至る総括方法についての共通理解を図り、評価に対する客観性、信頼性を高める。 生徒、保護者による授業評価を行い、授業改善に資する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年3回の面談を通して規則正しい生活習慣や家庭学習の定着を図る。 地区祭「広場の祭典」にボランティアとして生徒を積極的に参加させる。 NPO法人や民間企業、同窓会と連携したキャリア教育を推進する。(ライフプランニング等) 地域連携コーディネーターの活用